

## 2023 年度上半期学生海外発表奨励金 成果報告書

氏名：稲田 真子

所属：東京大学理学系研究科地球惑星科学専攻・修士2年

会議名称：AGU Annual Meeting 2023

開催期間：2023年12月10日～2023年12月16日

開催場所：サンフランシスコ（アメリカ合衆国）

いよいよ渡航日が来た。何度も練習して原稿は頭に入っている。しかし、開催地であるサンフランシスコもさることながら、国際学会も初めてのことで、不安で夜しか眠れていない。なにせ自分の発表日は初日で、会場や現地の雰囲気慣れる間もなく発表しなければならない。飛行機をホノルルで乗り継ぎ、サンフランシスコに向かう。隣の席の人が手にする本の、日常英会話の手引きなるタイトルがチラッと見えた。日本語だ。もしかして、彼もAGUの参加者だろうか。ハリウッド映画だと飛行機の隣の人と話すシーンを見かけるが、話す余裕は私にも彼にも無さそうだ。そもそも日本人だし、と心の中で言い訳しつつ発表内容をもう一度頭の中でおさらいする。

さて発表当日。レジストレーションを済ませたら自分の発表する会場を下見する。昼食後は会場の建物の近くの広場で滝に向かって青空プレゼンと洒落込む。いよいよ自分の番が近づいて、会場の壇上に上がるとコンビーナの方がファイルを探すのに手間取っているようだ。東洋人の名前は見つけづらいのかもしれない。ここでスマートに手助けできたと思うが中々上手くいかない。緊張しているようだ。気を取り直して発表開始。練習の甲斐あってなんとか話しきる事ができた。時間も想定とそんなにずれていないとホッとしたのも束の間、どうやら準備に時間がかかっていたので質疑応答の時間は取ってもらえなかった。状況に応じて素早く適切に英語を話せたらとこんなにも後悔したことはないかもしれない。

参加の一番の目的である発表は終えたが、会期中の5日間でできるだけたくさんのお話を学んで帰りたい。AGUは地球科学の分野で最も大規模な学会で、ポスター会場は地球深部から惑星科学まで地球中心からの距離がだんだん遠くなるように配置されている。初めは辿々しい英語でしか話せなかったが、日を追うごとに要領が掴めてきて議論らしくなってきた。

と、そこに見覚えのある人物が。なんと、行きの飛行機で隣に座っていた彼である。タイミングが合わず話せなかったが、勝手な仲間意識から心の中で応援させてもらった。さらには、自分の発表に興味を持って後から質問してくれてくれた研究者も。この時は自分の研



究のことだったので母国語を話すごとく滑らかに説明できた。

あっという間に5日間が過ぎて、帰る日が来てしまった。起伏が多く高台となっており海が見える素敵な街並みともお別れである。心配していた治安は歩く場所と時間帯に気をつけていれば問題なく過ごせた。円安による物価高も奨励金をいただいたおかげで乗り切る事ができた。帰りの飛行機では日本に観光に来たというギリシャ人と友達になり、楽しく過ごすことができたのは思わぬお土産である。

最後になりますが、この度は日本高圧力学会の学生海外発表奨励金を援助していただき、このような得難い経験をさせていただいたことを心より感謝いたします。